

音楽の学びが つながる

子どもたちの中で
学んだことが実感をもってつながり、
学習を積み重ねていくことができるように、
全学年を通して
段階的、系統的に学習が進められる題材により
教科書を構成しました。

音楽科で育成する学力を確かなものにします

新学習指導要領において、育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され、音楽科においても教科の目標・内容が再整理されました。

新しい教科書では、子どもたちの「気付く・分かる(知識)」「できる(技能)」と、“このように演奏したい”“この音楽がすてきなのはこういう理由だから”というような「思いや意図をもつ(思考力、判断力、表現力等)」活動をしっかりと関わらせつつ、「楽しみながら音楽の学びと向き合う(学びに向かう力、人間性等)」ことができるように編集しました。

学びをつなぐ

「気付く・分かる」をサポート

学習の目当てを分かりやすく文章で説明したり、体の動きを取り入れたりして、子どもたちが実感をもって理解できるように工夫しました。

「思いや意図をもつ」をサポート

キャラクターの吹き出しで学習のヒントを示したり、工夫するポイントや意見交換する観点を記したワークシートを例示したりしました。

「できる」をサポート

歌ったり楽器を演奏したりする技能の習得をサポートするために、演奏家のアドバイスやベテランの先生方のアイデアを取り入れました。

【本書 p.28 ~ 33 参照】

できた!

こう歌いたい。

分かった!

ここを工夫してみようかな。

ここが曲の魅力だと思ふな。

ヒントを出したり考えるきっかけを示したりして、子どもたちの学習をサポートします。

学習を支えるキャラクターの吹き出し

子どもたちの気付きや思考を促す内容を充実させました。

活動を深めたり広げたりします。

ミューちゃん

ジック君

タンブ博士

主体的な学びをサポートします

子どもたちが主体的に学習に取り組めるように、「何を学ぶのか」を分かりやすく提示しました。また、年間を通しての学習の見通しをもてるよう、巻頭にその概要を「学びの地図」で示し、さらに巻末には、「ふり返りのページ」を設けて、学習したことを確認できるように構成しました。



4年生では、こんなことを勉強するんだね。

4年 p.2・3

1年間の見通しをもつ

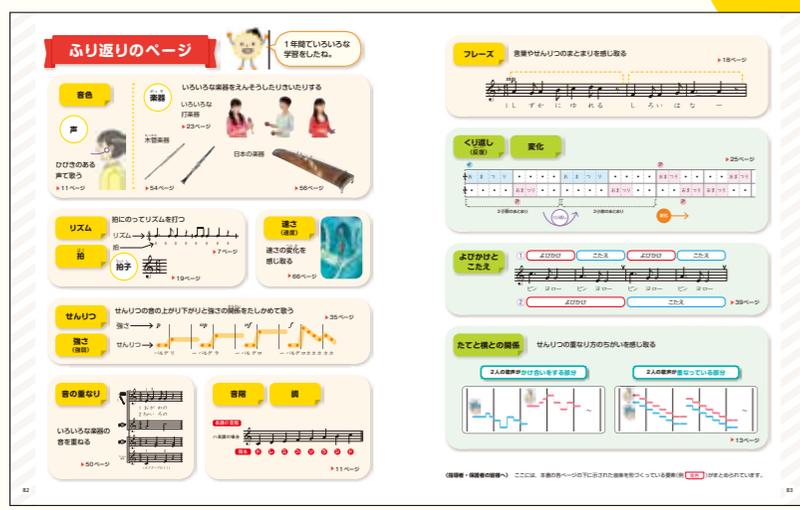
学年の始めに
その学年で学習する内容について、大まかなイメージをもつことができます。

学んだことを振り返る

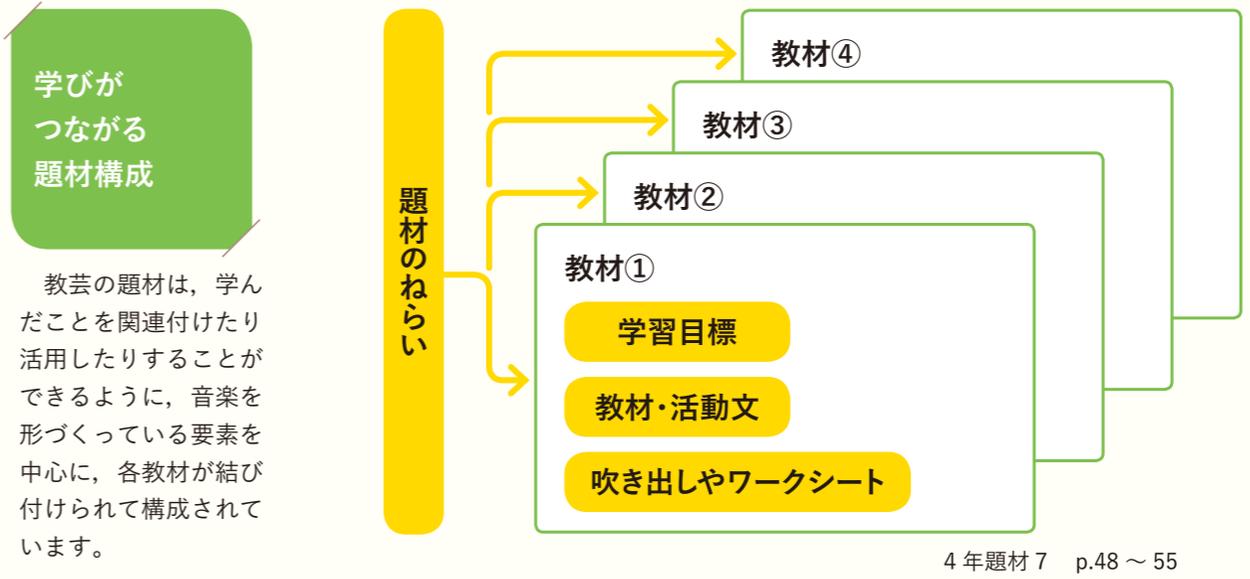
学期末や題材のまとめごとに
学習したことを振り返って確認したり関連付けたりすることができます。

いろいろなことを思い出せて、便利だな。

関連事項の振り返りに
学習したことを振り返って活用することができます。



4年 p.82・83



教芸の題材は、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるように、音楽を形づくっている要素を中心に、各教材が結び付けられて構成されています。

7 フルートとクラリネットのひびきに
親しましましょう。

7 いろいろな木管楽器

7 ゆたかなひびきを味わいながら
えんそうしましょう。

7 音のとくちょうを生かして
音楽をつくりましょう。

音色 強弱 音の重なり たてと横との関係

音色 強弱 音の重なり たてと横との関係

教材を指導する際の目安となる、〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素をページ下に示しました。各学年で学習したものは、「ふり返りのページ」にまとめられています。

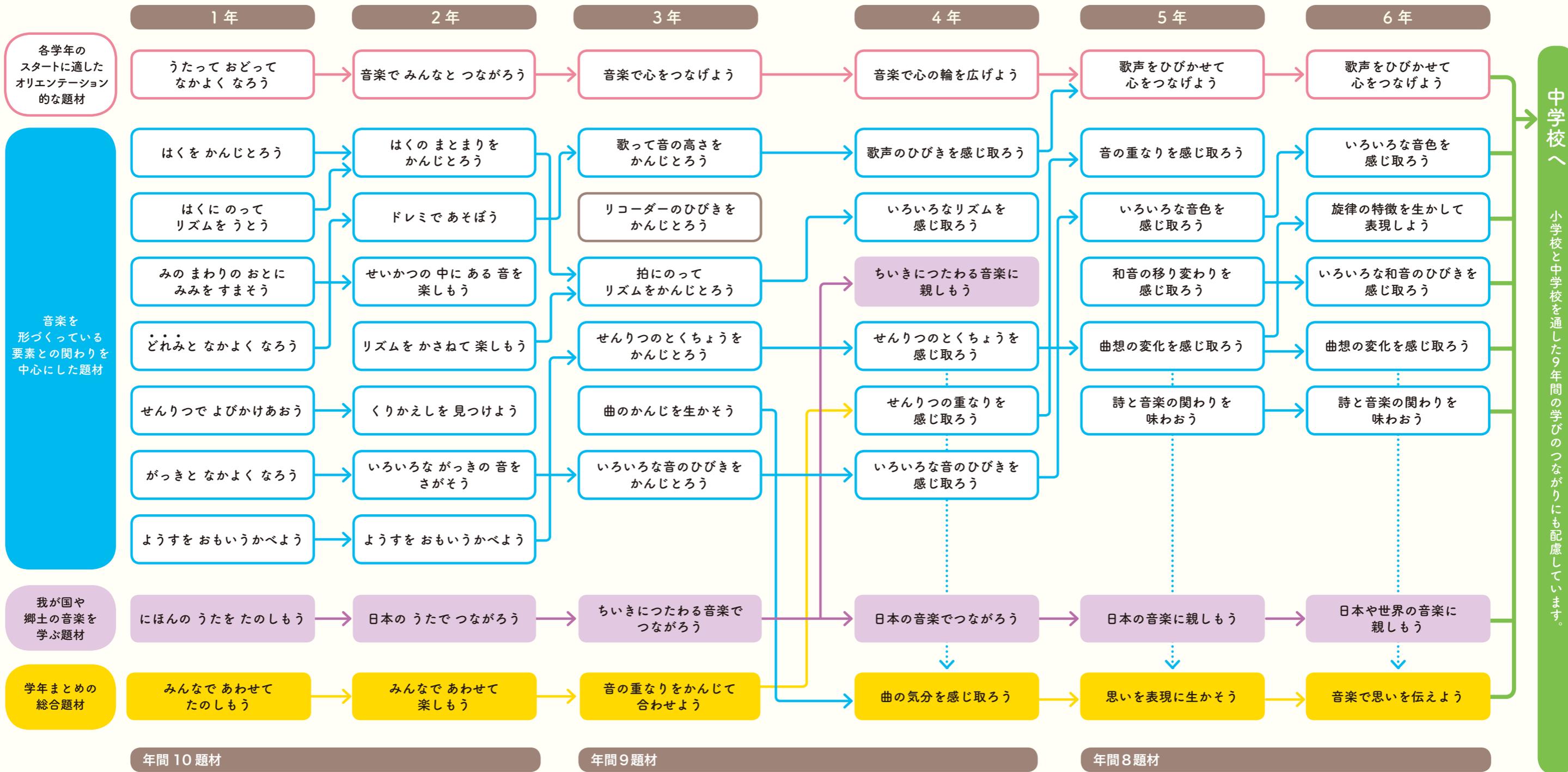
日々の授業で見通しをもつ

日々の授業において
各ページでは、何をねらって学習するのが、学習目標や活動文によって分かりやすく示されているので、見通しをもって学習に取り組めます。

音楽の学びが つながる

系統的な題材構成により、6年間の学びが積み重なります

題材は、学年内での学習のバランスを考慮して構成されており、学年間の関連も下図のように系統立ててあります。そのため、子どもたちの発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら学習を積み重ねていくことができます。



中学校へ

小学校と中学校を通した9年間の学びのつながりにも配慮しています。

音楽の学びがつながる

指導の手だてやノウハウを引き継ぎます

教科書の役割の一つとして、経験豊富な先生方がお持ちの経験やノウハウを、若い世代の先生方へ引き継いでいくために、指導の手だてやアイデアを掲載しました。

掲示物のアイデア

目で見ることでできない音楽を子どもたちと共有するためには、板書や掲示物が役に立ちます。
ここでは、旋律の特徴を感じ取るためのアイデアを紹介しています。

3年 p.40・41

常時活動のアイデア

リズムの学習活動は「常時活動」として扱うと、拍感やリズム感が育成されるだけでなく、他人と合わせて演奏するアンサンブルの技能が高まったり、音楽づくりに活かせる発想を得たりすることもできます。
2～4年には発達段階や学習内容に応じた教材を掲載しました。



3年 p.7

- 「常時活動」の活用について
- 気持ちや体をほぐして授業に入ることができるように、授業の始めの3分程度の時間を使って、少しずつ活動を積み重ねていきます。
 - 毎回の授業の始めに、リズムマシンなどに合わせてリズム打ちを楽しむ。
 - 慣れてきたら、次のステップに進む。
 - さらに慣れてきたら、速さや強弱を変えてみる。

他学年の例

- 2年生 p.15, p.17
- 4年生 p.7

音楽の学びが広がる

鑑賞学習のアイデア

鑑賞の定番教材になっている「待ちぼうけ」では、歌詞や旋律、その表現に注目しながら、作詞者、作曲家、演奏者の視点から鑑賞する学習方法を紹介しています。

5年 p.46

作詞者や作曲家など、創作した人の工夫を考える活動を通して、著作者を尊重する態度も育みます。

思いや意図をもって表現する力を育てます [歌唱の例]

技能の習得をサポートするコラムや体を動かす活動を示したり、学習のステップを丁寧に設定したりすることで、「こう歌いたい」という思いや意図に合った表現をするために必要な歌唱の技能の育成につながりました。

体を動かす活動を取り入れる

音の高さの違いを、手の動きと関連付けて音程感を育てる「ドレミ風船」のアイデアや、和音の響きの違いを体の動きで感じ取る「和音体操」などの学習方法を示しました。



音の高さの違いを手の動きを利用して確認する。

2年 p.21

思いと技能をつなぐ

学習目標の達成に向けて、どのような活動をすればよいのかを丁寧に示し、適宜、技能をサポートするコラムを掲載しました。



4年 p.35

知識

つなぐ

思考

つなぐ

技能

技能をサポートするコラム

歌詞の内容や自分の思いをきちんと伝えるために、声の出し方や発音の仕方に関するコラムを各学年に配置しています。

歌声 3

「ほほ」や「かわ」のように、同じ母音が続くところでは、その前の子音を意識して発音するようにすると、言葉がはっきりと伝わります。

ほほえみかわして
ho ho e mi ka wa shite

母音：ローマ字で書いた場合の「a i u e o」の5つの音のこと
子音：母音の前に付く「h」「m」「k」などの音のこと

5年 p.38

他学年の例

1年生 p.19	4年生 p.11, 35
2年生 p.21	5年生 p.11
3年生 p.36	6年生 p.11

和音を確かめよう

- 1のパートを楽器で演奏して、それぞれの和音のひびきを確かめよう。
- 和音の移り変わりを感じ取りながら、旋律を歌いましょう。



それぞれの和音が生み出す響きの違いを、体の動きで感じ取る。

伴奏をききながら体を動かして、和音のひびきのちがいを感じ取ってもいいね。



5年 p.34・35

合唱の技能を育てる系統性



中学校の混声合唱へ

主体的で意欲的な学習を引き出します [器楽の例]

演奏家によるワンポイント アドバイスや、合奏するときに必要なヒントを示したコラムを設けるなど、子どもたちが主体的に学習を進められるように配慮しました。

リコーダー

子どもたちが音の出し方をイメージしやすいように、イラストを使って説明しています。

リコーダーで「シ」の音をふきましょう。

音の出し方

タンギング
「tu」と言うときのように、舌の動きを使って音を出したり止めたりすることをタンギングといいます。

1 ないしょ話をするときのように「tu...」と言いながら、息を出したり止めたりしましょう。

息を出す → tu... → 息を止める → (t)

2 「シ」の音を「tu...」とふいて、「(t)」で音を止めましょう。

音を出す → tu... → 音を止める → (t)

息づかい
● 大きなしゃぼん玉をつくるようなつもりで、やさしく息を出してふきましょう。

3年 p.22

てひくい音をふくときのポイント

リコーダーでひくい音をふくときは、「tu...」と言うときのように、やわらかい息でふきましょう。

下あごが下がらないように気をつけよう。

「tu」のタンギング → 「tu」のタンギング

上のあごからながれる水の量は、息のながれの様子を表しているよ。「tu」のタンギングとくらべて、「tu」のタンギングの息のながれはどうかっているかな。

● タンギングや息のながれに気をつけてふきましょう。

練習 ① ② ③

3年 p.45

演奏家からのワンポイントアドバイス

リコーダーをえんそうするときには、歌うようにふくことが大切です。曲のかんじをつかむために、せんりつを「tu」で歌ってみるといいですよ。



リコーダー奏者の吉澤 実さん

3年 p.25

子どもたちの思考を促すコラム

パートの役割 この曲の①②③④のパートは、下の4つの役割を受け持っています。演奏をきいて、それぞれのパートの役割や旋律の特徴を確かめましょう。

主な旋律 合奏全体の中で最も大切な旋律のパート

かざりの旋律 主な旋律をかざるように寄りそう別の旋律のパート

和音 合奏全体のひびきを豊かにするためのパート

低音 合奏全体のひびきを支えながらリズムを弱むパート

それぞれのパートの音の動きやリズムには、どんな特徴があるかな。

パートの番号を書こう

6年 p.18・19

パートの役割を生かして演奏するために必要なことについて考えながら、学習を進められます。

和楽器 (箏)

中学年から始まる和楽器の学習では、箏を取り上げ、共通教材や鑑賞教材と関連させながら学習できるようにしています。

ことをひいてみよう

● 8ページで歌った「さくら さくら」をことひいてみましょう。

糸の名前 下の図のようにする位置から見て、向こう側から手前に向かって順に、一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 糸 市 といいます。

すわる位置 真ん中にあるのが七の糸だよ。

ひいた音をよくききましょう。 とくに、同じ音をつづけてひくときには、うめが糸にふれて「ピリッ」という音が入らないように気をつけましょう。

うめをはめよう 右手の親指、人さし指、中指につまをはめます。つま指がうめの根元までくるように、深めにはめましょう。

ことの前にはすわろう 左ひざの外側が膝の部分に当たるように、右ひざが膝の部分に当たるように。ことにに対して少しななめにすわる。ことにに対して正面に胸を向かせる。

ことをひいてみよう 「さくら さくら」は、親指だけでひきます。電筒より2～3cm左のところに、糸を向こう側にあすようにしてひきましょう。

うめの向でひく。 うめの向でひく。

人さし指、中指、薬指は、親指でひく糸の3～5本向こう側の糸にそろえておこう。

4年 p.58・59

演奏家からのワンポイントアドバイス

ひいた音をよくききましょう。とくに、同じ音をつづけてひくときには、うめが糸にふれて「ピリッ」という音が入らないように気をつけましょう。



こと奏者の速瀬 千晶さん

子どもたちの意欲を引き出す合奏教材

手拍子で演奏することができる合奏教材をはじめ、子どもたちの意欲を引き出す合奏教材を開発しました。

手拍子のリズムを重ねてえんそうしましょう。

● 拍のこつて、気持ちを合わせてえんそうしましょう。

合わせよう
● 息の合ったえんそうをするために、2つの「耳」を育てましょう。
① となりの友達をよよくきく耳 ② クラス全体の音をよよくきく耳

同じパートの友達と自分の打つ音がひびきあえるように打てよう。

少しずつ他のパートの音をきけるようにしよう。

4年 p.20・21

5年生の巻末 p.74～77 には、鑑賞教材 p.29 とリンクさせ、高校野球の応援にも使われる「アフリカン シンフォニー」を掲載しました。

積み重ねの学習によって創造性が伸長します [音楽づくりの例]

子どもたちが「何を」「どう工夫して」音楽をつくれればよいのかという見通しをもてるように、作品例や様々なアイデアを例示し、思考・判断しながら、主体的に学習に取り組めるようにしました。

工夫すべき
ポイントを
分かりやすく



プログラミング的思考を働かせる

自分の意図したとおりになるように、リズムパターンや音色の組み合わせを考え、試行錯誤しながら改善していくことができる教材を設け、音楽科におけるプログラミング的思考が働くように配慮しています。

学びが積み重なる「音楽づくり」の学習の流れ

5年 p.30 ~ 33

音楽の学びがつながる

